



令和7年2月号



令和七年二月六日発行
 発行所 真言宗醍醐派宗務本庁
 京都市伏見区
 醍醐東大路町二十二

電話 〇七五-五七二-〇〇〇二
 FAX 〇七五-五七二-〇〇〇二

歴史的な転換点

昨年十一月十四日より五日間、全山紅葉錦秋に染まる境内に於いて醍醐寺開創千五百年慶讃大法要が、本末の総力を結集して奉修。仏天のご加護を得て、滞りなく執り行う事が出来ました。

上醍醐では、平成十七年八月六日以来となる五大堂前での柴燈護摩を厳修。全国の寺院・教会・教師修験僧侶の絶大なるご協力を賜り、上醍醐再興の決意を聖寶理源大師にご報告出来ましたことは、この上ない慶びでございます。

開創法要記念事業である、平成三十年九月、近畿地方に上陸した台風21号による倒木被害地の復旧事業である法流の杜プロジェクト、上醍醐防災道路の修復工事・上醍醐准胝観音像奉納・聖天堂修復工事、上醍醐再興等の計画、実行、経過につきまして定期的に報告させていただきます。ご了承ください。

さて、世界に目を向けますと、各地で発生している軍事侵攻や武力紛争によって多くの人々

が苦しんでおられます。

我が国では、急速に進む少子高齢化・人口の減少という人口構造の変容が、社会機能の維持を困難にし、様々な社会問題が起こっております。昨今多発する闇バイトによる強盗事件など、生命の尊厳が著しく侵害されている事件の背景には、生活困窮者の増加が要因ともされており、これも人口構造の変容による問題とつながっていると考えられています。

こうした社会の変化により、宗教界を取り巻く環境も大きく変化してきているようであります。特筆すべきは、「無宗教」と答える人が増加していることではないでしょうか。宗教心の希薄化は、宗教界にとりまして危機的状況にあるように思われてなりません。

このように世相は混沌とし、世界秩序は乱れに乱れ、先行き不透明な時代に日本人の宗教的意識や行動は今後どのように変化していくのか注視することはもちろんのこと、危機感を持つ

大原 弘敬

今月の掲載内容

- ・歴史的な転換点
- ・聖天堂周辺の改修工事に関するご報告
- ・録事
- ・宗派だより
- ・醍醐寺だより
- ・本庁からのお知らせ
- ・醍醐寺からのお知らせ

5 5 5 5 4 3 1

て柔軟に即応した対応が出来るようにしておくことが重要であると考えております。そのためにも一度、原点回帰し、再構築する必要を強く感じております。

醍醐寺開山聖寶理源大師は、「實修実証」というお言葉を我々に遺されました。

「實修実証」とは、「入りて学び 出でて行う」こと。まさに、「菩提心」を起し、「菩薩行」を実践することであります。悟りを求め、仏と同じ悟りを得たいと願う心。誰かの為に役立つ心、社会貢献したいと願う心です。

『理趣経』の初段に「わずかに発心すれば即ち法輪を転ずる」。私はこんなに修行をしたから、そろそろ人を導こうという事ではなく、わずかに発心すれば法輪を転ずることができるとあります。第九段には、「菩提心を発すことはすなわち諸々の如来において広大の供養になる」とあります。

我々真言僧侶は、法の継承を灌頂儀礼において遂行されます。その際に弟子は「菩提心」の修習の有無を問われます。よって、「菩提心」は法を継承するための資格であると言われてい

ます。

「菩提心」とは、悟りを求める心であり、「発願心」（菩薩行を願う心）と「発趣心」（実際に菩薩行を実践すること）であります。まさに、「實修実証」なのです。

「實修（発願心）」だけでも無限の功德はありますが、「実証（発趣心）」にはさらにそれを上回る功德があるのです。

醍醐寺が歴史的な転換点を迎えたであろう令和七年乙巳。「巳年」は努力を重ね、物事を安定させていく。挑戦や変化に対して前向きな姿勢を示す年とも言われています。

「妙薬箱に満つれども、舐めざれば益なし」。
（『性霊集』より）

どんなによく効く薬でも飲まなければ効かない。行動を起こさなければ何も起こらない。

「物の荒廃は必ず人による 人の昇沈は定めて道にあり」（『綜芸種智院式並に序』より）

物事が栄えるか滅びるかは、その物事に関わっている人による。人々が力を合わせ、志を同じくするか、しないかにかかっている。人が向上するか沈んでしまうかは、その人の学んだ生き方による。すなわち、「菩提心」をもって「菩薩行」に励むか、或いは悪心によって悪行を積むかによる。

拙僧は、壁瀨猥下の変革の信に込めるべく、そして「菩提心を発し、菩提道を行ずる」という、宗教者としての基本的理念と醍醐寺は宗教法人であるという根底を忘れることなく、勇猛

果敢に改革を推し進めてまいる所存でございます。

醍醐寺開創千五十年記念事業である上醍醐復興や法流の杜再建計画は、心の疲弊を潤すカンプル剤となりえると確信致しております。

特に上醍醐は、聖寶理源大師が草庵を結び、准胝・如意輪両観世音菩薩を安置した聖地であり、当山派修験道の道場であります。多くの皆様が焼失した准胝観音堂の再建を心待ちにしておられます。その想いにお応えできるよう全力で精進させていただきます。

先ずはお山の清掃から始め、その後インフラ整備、参道修復、宿坊整備、建造物の修理を順次進めてまいる予定でございます。

そして既にご存知の方もいらっしゃるかと存じますが、五大堂にて仁王会の前行を再開させていただきます。下醍醐金堂と並行して執行させて頂く予定でございます。上醍醐では当面少数人数にて執り行いたく存じます。

全国の寺院・教会・教師修験僧侶の皆様は元より、醍醐寺用達会員・地域の皆様にも広くお声掛けをさせていただき、有縁の皆様のお力をお借りいたし、信仰のお山の威厳と權威を取り戻して行く不退転の決意でございますので、ご指導ご鞭撻並び、お力添えを賜りますよう、伏してお願ひ申し上げます。

合掌

令和七年 告示第一号

真言宗醍醐派一般

宗教法人真言宗醍醐派規則第二章第六

節及び同宗制第三章第六節の規定により、

来る三月十三日 第七十七次宗会を宗務

本庁に招集する。会期は二日間とする。

右記、告示する。

令和七年二月六日

真言宗醍醐派管長

大僧正 壁瀨宥雅

聖天堂周辺の改修工事に関するご報告

神変別冊十二月号に掲載いたしました三宝院内聖天堂屋根の改修工事につきまして、昨年十二月末に無事改修が終了いたしました。

本年一月からは聖天堂渡り廊下の屋根改修工事、弥勒堂前渡り廊下の改修工事を順次開始いたしております。

なお三月末には聖天堂周辺の改修工事をすべて終え、五月頃に聖天堂にて聖天供を執り行う予定となっております。

詳細につきましては、改めてご報告申し上げますので、その際は、是非ご参拝ください。



聖天堂渡り廊下屋根改修開始



弥勒堂前渡り廊下改修開始

令和七年二月二十三日 五大力尊仁王会当日行事案内

九時 五大力尊仁王会法要開始 金堂

五大力尊御影守授与開始 金堂前

柴燈護摩特別祈願開始 柴燈護摩道場

十時 奉納「餅上げ」

小学生の部 金堂前特設舞台

十一時 奉納「餅上げ」

男性の部 百五十キロ 金堂前特設舞台

十三時 奉納「餅上げ」

女性の部 九十キロ 金堂前特設舞台

十六時三十分 五大力尊仁王会法要終了 金堂

柴燈護摩特別祈願終了 柴燈護摩道場

十七時 五大力尊御影守授与終了 金堂前

※都合により時間を変更する場合がございます。

仁王会 金堂内拝

九時～十六時三十分 於 金堂

内拝料 千円

仁王会 金堂内特別祈祷

九時～十六時三十分 於 金堂

志納料 三万円

みなさまお誘いあわせの上、ご参拝くださいませ。

録事

▼住職・主管者任命	十二月十五日	備中	大日院	(代)	平松	靖史
▼責任役員任命	十二月二日	宮崎	光明寺		谷山	光永
		宮崎	龍仙寺		大崎	春子
	十二月九日	山口	正法院		江崎	隆史
	十二月十日	山梨	行藏院		江崎	愉子
	十二月十二日	山口	眞覚寺		後藤	典子
	十二月十三日	山口	不動院		伊藤	眞悠
	十二月十五日	備中	大日院		平松	幹章
	十二月十六日	三河東部	玉宝寺		大原	和朗
	十二月十七日	山口	四福寺		河合	利子
	十二月十九日	北海道	西福寺		池田	真道
	十二月二十日	山口	観音寺		水野	清美
		山口	光福寺		大原	戒法
		山口	狗留孫山修禪寺		西坂	弘敬
	十二月二十三日	山口	小南寺		黒岩	聖款
					浅原	カヨコ
					井上	隆雄
					江口	雄二
					川野	直人
					大原	弘敬

▼総代委嘱	十二月二日	宮崎	光明寺		後藤	哲一
		宮崎	龍仙寺		工藤	俊作
	十二月六日	青森(直)	圓覚寺		山本	博司
		三河東部	光明院		藤本	幸司
	十二月九日	山口	正法院		木山	光誠
	十二月十日	山口	眞覚寺		菊池	忠義
					山本	博司
					藤本	幸司
					工藤	俊作
					後藤	哲一
					前田	秀夫
					七戸	秋彦
					川崎	和彦
					香田	忠彦
					森田	廣子
					亀甲	孝子
					白井	直美
					朝山	和太
					井上	敏子
					久岡	忠法
					西村	忠法
					小濱	鉄也
					石岡	美子
					小早川	勝巳
					森重	富士乃
					清水	孝
					廣重	敏身
					上原	務
					末広	達一
					白地	秀明
					横部	秀明
					石井	知恵
					平松	諭史
					間野	由佳
					富川	彰三
					坂卷	恵介
					伊藤	良子
					佐々木	里恵
					本山	広美
					清水	衛

▼承認・証明	十二月十五日	山梨	松鶴院	宗教法人解散の件	丸塚	宝潤
	十二月二十日	鹿兒島			僧名変更の件	
	十二月二十三日	山口	小南寺		栗原	弘子
					三輪	信幸
					伊藤	吉広
					松尾	祥江
					木村	美祐子
					浅井	捷嗣
					時田	啓司
					重安	明美
					山下	早希
					山本	享史
					浅原	義人
					占部	恵美
					木原	佳子
					福嶋	勝士
					松原	尚子
					松原	睦子
					吉鷹	法子
					稲田	敬力
					福嶋	久枝
					野崎	義嗣
					森脇	稔
					上田	俊昭
					西岡	宗治
					松原	真史
					坂本	太志
					坂本	和子
					坂本	みゆき

(「宝潤」から「往撰」へ変更)

宗派だより

真言宗醍醐派 三重宗務所 講習会

令和六年十二月四日(水)

会場・アスト津四階 会議室

講師・大原弘敬 宗務総長

第五十三回修験伝法教校

令和六年十二月五日(木) ～十二月九日(月)

醍醐寺三寶院

初級 七名、中級 三名、上級 四名

修験得度式

令和六年十二月六日(金)

醍醐寺三寶院本堂

受者 七名

恵印灌頂

令和六年十二月八日(日)

醍醐寺三寶院本堂

減罪灌頂 八名、覚悟灌頂 四名、伝法灌頂 四名

寺庭のつどいおよび教学研修会

令和六年十二月十四日(土)

醍醐寺三寶院(白書院・研修棟)

法話・真言宗醍醐派 仲田順英 総務部長

華道正月飾り実演・三寶院御流 植木庸甫 華務長

食事作法の解説・百目鬼幸秀 教学部課長

特別講演・大本山石山寺 鷺尾龍華 座主

教学研修会 梵字悉曇伝授 第二会

令和六年十二月十七日(火) ～十二月十八日(水)

醍醐寺研修棟(Zoom受法可)

伝授・悉曇阿闍梨・種智院大学 副学長 児玉義隆 僧正

伝法灌頂

令和六年十二月二十三日(月)

受者・伝法学院生 四名、三憲伝授受者 五名、末寺徒弟 四名

醍醐寺だより

大晦日法要 平座理趣三昧法要

令和六年十二月三十一日(火) 午後九時三十分 金堂

初祈禱授戒会

令和七年一月五日(日) 午前十時 柴燈護摩道場・金堂

初聖宝会

令和七年一月六日(月) 午前十一時 上醍醐 開山堂・伽藍 祖師堂

後七日御修法

令和七年一月八日(水) ～一月十四日(火) 京都 総本山教王護国寺

出仕・北海道 大心寺 権大僧正 萩原隆朝

本庁からのお知らせ

総務部より

宗教法人の寺院・教会は、毎年会計年度終了後四月以内に役員名簿と財産目録の写し

を所轄庁(都道府県庁)に提出することとなっております(「宗教法入法」第二十五条第四項)。

この他にも、収支計算書、貸借対照表、境内建物に関する書類、事業に関する書類の写しの提出が必要となる場合があります(詳細は、真言宗醍醐派宗務本庁ホームページ又は、文化庁ホームページ参照)。

宗務本庁では、これらの書類の写しを本庁にも提出いただくことを、宗教法人並びに非宗教法人の寺院・教会にお願いいたしております。

また、寺院・教会は、適切な運営のため、当該寺院・教会規則に基づき、責任役員及び総代を置かなければなりません。責任役員・総代に欠員が生じた場合、任期満了になられた場合には、速やかに申請を行ってくださいようお願いいたします。

財務部より

既に宗費賦課金の請求書を送らせて頂いておりますが、まだお手元に届いていない場合は、宗務本庁財務部宛にご確認ください。

お手元にご置きます場合は、お早目の納付をお願い申し上げます。

醍醐寺開創千五十年慶讃事業義納金や各種お支払いに関するお問い合わせは、宗務本庁財務部までご連絡ください。

教学部より

易学講習会

令和七年三月二十四日(月)、三月二十五日(火)

醍醐寺研修棟

講師・石原明順 師

家相鑑定法

令和七年三月二十七日(木)、三月二十八日(金)

醍醐寺研修棟

講師・御園珠美佳 先生

※詳細情報およびお申し込み・お問い合わせは、下記のQRコードから。

教学部では、さまざまな研修会のご要望を募集しております。現地での開催希望の場合は宗務所単位や、ある程度の参加人数でのご相談となりますので、是非お問い合わせください。

醍醐寺からのお知らせ

五大力尊仁王会前行

令和七年二月十五日(土) ～二月二十一日(金)

金堂

五大力尊仁王会

令和七年二月二十三日(日・祝)

金堂

彼岸会

開白 令和七年三月十七日(月)

中日 令和七年三月二十日(木・祝)

結願 令和七年三月二十三日(日)

醍醐寺オープンテンプル「IDAY」こころの修行体験

令和七年三月八日(土)、同年五月十日(土)



←お申し込みはこちら

田中伊雅佛具店

〒600-1845
 京都市下京区万寿寺西洞院東入ル
 TEL (075) 351-2584
 FAX (075) 341-8822
<http://www.tanakaiga.com>

法衣・仏具製造及び販売



井筒法衣店

600-8468
 京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

Tel 075-365-0001

Fax 0120-075-730

Fax 075-353-7021

オンラインショップは
 こちらから →



林勘法衣店

〒602-10874
 京都市上京区河原町丸太町
 西筋下ル東土御門町345
 TEL (075) 231-2244
 FAX (075) 255-1632
 E-mail hayashikan@beach.ocn.ne.jp

大峯山陀羅尼助丸

花谷神変堂

〒638-10431
 奈良県吉野郡天川村洞川235
 TEL (0747) 64-10047
 FAX (0747) 64-10070

土山印刷株式会社

〒601-8308
 京都市南区吉祥院向田東町14
 TEL (075) 312-1321
 FAX (075) 313-8521
www.tsuchiyama.co.jp

上田法衣佛具店

〒604-10913
 京都市中京区河原町二条西入上る
 TEL (075) 221-3348
 FAX (075) 211-1858

今井半念珠店

〒605-10934
 京都市東山区大黒町通正面南入
 TEL (075) 561-0307
 FAX (075) 525-12557

松栄堂

〒604-10857
 京都市中京区烏丸通二条上ル東側
 TEL (075) 212-15590
<https://www.shoyeido.co.jp>

大住法衣店

〒604-18274
 京都市中京区小川通三条上ル西堂町
 TEL (075) 221-3087
 FAX (075) 221-3038
 E-mail oosumihouji@gmail.com

山城屋文政堂

藤井佐兵衛

〒600-18029
 京都市下京区寺町通五条上ル
 TEL (075) 351-1936
 FAX (075) 343-1550
<http://yamasa-bunseido.com>

杉本権七法衣店

〒600-18304
 京都市下京区新町通六条下ル
 TEL (075) 351-12890
 FAX (075) 341-16774

和光印刷株式会社

〒602-10012
 京都市上京区烏丸通上御霊前上ル
 TEL (075) 441-5408
 FAX (075) 441-4982
 E-mail info@wako-print.co.jp



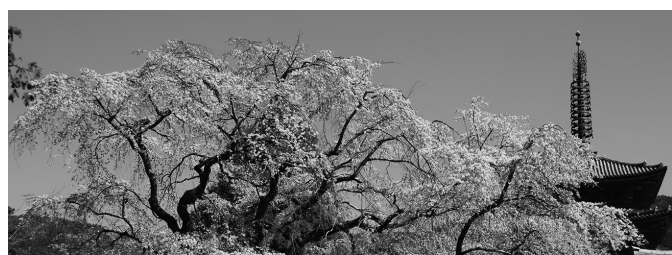
醍醐寺開創1150年慶讃事業義納金について

今般の義納金は、醍醐寺開創以来1150年に亘って受け継がれてきた法流伝承の象徴として「法流の杜」を整備するための大切なものです。

詳細はお手元のパンフレットをご確認いただき、是非お早目の納入をお願いいたします。

ご不明点は宗務本庁までお問い合わせください。

【お問い合わせ】 宗務本庁 TEL：075-571-0002



2025年 桜会 3/15(土) 4/15(火)
 総本山 醍醐寺

- 3/15 (土) 桜会開白 大般若転読法要
- 4/ 1 (火) 桜会中日 柴燈大護摩法要
- 4/13 (日) 豊太閤花見行列
- 4/15 (火) 桜会結願

